

# 長崎県壱岐病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

【長崎県壱岐病院の基本情報】

医療機関名： 長崎県壱岐病院

開設主体： 長崎県病院企業団

所在地： 長崎県壱岐市郷ノ浦町東触 1626 番地

許可病床数： 228 床

(病床の種別)

一般 120 床、療養(医療型)48 床、結核 6 床、感染症 4 床、  
精神 50 床(休床中)

(病床機能別)

急性期 77 床、回復期 43 床、慢性期 48 床

稼働病床数： 178 床

(病床の種別)

一般 120 床、療養(医療型)48 床、結核 6 床、感染症 4 床

(病床機能別)

急性期 77 床、回復期 43 床、慢性期 48 床

診療科目： 17 診療科

内科、精神科、消化器内科循環器内科、呼吸器内科、小児科、  
外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、  
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

正規職員数： 148 人

(29.3.31 現在)

医師 10 人、看護師 91 人、助産師 3 人、薬剤師 5 人、臨床検査技師 6 人、  
診療放射線技師 6 人、理学療法士 8 人、作業療法士 3 人、言語聴覚士 2 人、  
臨床工学技士 1 人、栄養士 2 人、事務 11 人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○人口動態

壱岐市の人口は平成27年国勢調査において27,103人で、5年間で2,274人減となっており、人口問題研究所の平成25年3月公表の同年推計人口27,345人を下回り、推計値より人口減少のペースが速くなっています。また、高齢化率は平成28年3月末の住民基本台帳人口は35.7%で、平成22年度末と比較して4.5%増加しており、人口の3人に1人以上が65歳以上となっています。

○病床機能

平成 27 年度病床機能報告の機能別病床数では壱岐地域の機能別病床数は高度急性期0床、急性期209床、回復期43床、慢性期208床となっています。

平成 27 年度病床機能報告の機能別病床数(許可病床数)

構想区域	報告医療機関数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	未回答(不明)	合計
長崎	134	902	3,877	1,168	2,518	233	34	8,732
佐世保県北	93	341	2,421	718	1,505	171	6	5,162
県央	80	384	1,813	502	1,791	192	41	4,723
県南	53	16	854	432	647	60	60	2,069
五島	13	0	407	17	92	4	19	539
上五島	2	0	149	0	50	0	0	199
壱岐	7	0	209	43	208	16	0	476
対馬	3	0	222	60	0	6	0	288
合計	385	1,643	9,952	2,940	6,811	682	160	22,188

長崎県地域医療構想より

○受診動向

島内では高度医療、専門医療を受けることができないことに加え、福岡の大都市医療圏の近隣に位置するため、島外で受診する患者が多く、また、精神科の入院施設が民間1病院しかないため、平成28年度の国民健康保険受診動向では入院医療費の6割以上が島外の入院となっている状況です。

平成28年度国民健康保険加入者受診動向調査(医療費ベース)

(単位:百万円)

区分	入院		外来		合計	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
壱岐市計	1,808	100.0%	1,207	100.0%	3,015	100.0%
県内	680	37.6%	1,023	84.8%	1,704	55.3%
壱岐市内	535	29.6%	1,013	83.9%	1,548	50.0%
島外(県内医療機関)	145	8.0%	11	0.9%	156	5.3%
県外	1,128	62.4%	184	15.2%	1,312	44.7%
福岡県	1,064	58.9%	177	14.6%	1,241	42.3%
県外(福岡県除く)	63	3.5%	7	0.6%	71	2.4%

壱岐市提供資料より

## ② 構想区域の課題

○現状に示すとおり島外への患者の流出対策が課題となっています。島内で対応できない高度医療を除いて、二次医療圏として地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくための医療提供体制を整備していく必要があります。

○また、島内には多くの民間医療機関があり、壱岐地域における地域包括ケアシステムの構築に向けて機能分化、連携のあり方について整理が必要です。

○病床数は長崎県地域医療構想において、2015年(平成27年)病床機能報告における病床数と2025年の必要病床数とを比較すると急性期・慢性期病床が多く、回復期病床が不足となっており、今後、構想区域での病床のあり方を検討する必要があります。

離島の構想区域の必要病床数(病床機能報告との比較)



長崎県地域医療構想より

## ③長崎県壱岐病院の現状

### ○長崎県壱岐病院の基本理念

「患者さんが安心して治療・療養に専念でき、職員が希望と誇りを持って働く病院であり、先進的であたたかい包括医療ができる地域の中核病院を目指します。また、その機能は、地域全体で活用されるよう、連携を密にし、若人がいつも集い、教育や研修が行われる病院を目指します。」

### ○長崎県壱岐病院の基本方針

- ・救急医療をはじめ、急性期医療の充実を図ります。
- ・地域連携を進め、限られた医療資源を有効に活用し、壱岐市全体の医療の質の向上を図ります。
- ・教育・研修環境を整備し、学生をはじめ、多くの若人が集う地域を目指します。
- ・医療と福祉の連携を強化し、快適な療養環境の整備に努めます。

○地域の中での役割

- ・救急告示病院
- ・二次救急輪番制病院
- ・災害拠点病院
- ・長崎DMAT指定病院
- ・がん診療離島中核病院
- ・第二種感染症指定医療機関

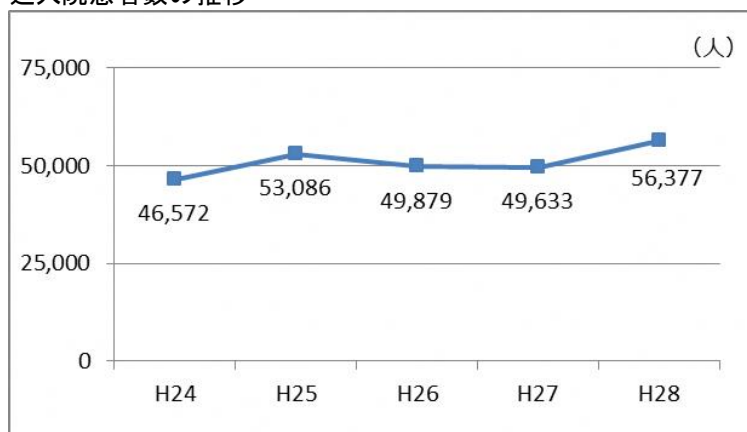
○診療実績(平成28年度)

延入院患者数： 56,377人 (1日平均154.5人)

平均在院日数： 急性期病棟11.9日、地域包括ケア病棟27.2日、療養病棟63.7日

病床稼働率： 急性期病棟89.7%、地域包括ケア病棟99.5%、療養病棟87.6%

延入院患者数の推移



④ 長崎県壱岐病院の課題

○医師等医療従事者の確保・人材育成

医療体制の充実・経営の安定化に向けて、特に不足する常勤医師をはじめとする医療従事者の確保が必要であり、将来の地域医療を担う若い医師を育成する体制の整備や職員研修の充実などを図り、医療技術者の人材育成に取り組む必要があります。

○人口減少、少子・高齢化等の地域環境の変化を踏まえた医療の提供

人口減少や少子・高齢化の急速な進行、島外への患者流出など、今後の医療需要等を見極め、可能な限り島内で完結できる医療提供体制の充実を図るとともに、適正な病棟体制・病床数などの診療体制見直しの検討が必要です。

○医療・介護等連携と経営健全化の推進

質の高い医療を安定的かつ継続的に提供していくため、島内外の医療機関や介護施設等とも連携を図りながら、急性期から回復期の患者受入体制を強化し、経営を健全化する必要があります。

## 【2. 今後の方針】

長崎県病院企業団は「長崎県地域医療構想」との整合性を図りつつ、将来を見据えた医療提供体制の構築や経営基盤の確立を図るため、平成27年3月の「新公立病院改革ガイドライン」に基づく「新たな公立病院改革プラン」として平成32年度までの4カ年の取組を明確化した計画「長崎県病院企業団第2次中期経営計画」を策定しました。

この「長崎県地域医療構想計画」と「長崎県病院企業団第2次中期経営計画」に基づき地域・病院が抱える課題に対する取り組みを進めていくこととします。

### ①地域において今後担うべき役割

長崎県病院企業団では患者数減少の状況に歯止めをかけ、地域に必要とされる医療の質の維持・向上を図るため、“郷診郷創”をスローガンに行政と協働して地域外患者流出の抑制に努めているところであり、第2次中期経営計画において壱岐病院の果たすべき役割として以下のとおりとしています。

- 壱岐医療圏の中核病院として、二次救急をはじめ急性期医療を中心に可能な限り島内完結を目指した質の高い医療を提供します。
- 地域包括ケアシステムの中核を担う病院として、島内の後方支援病院、診療所、介護等関係機関との連携を充実するとともに、あじさいネットの積極的な活用によるネットワークづくり等、地域包括ケアシステムの構築に向けた調整・支援を行います。
- 医師等医療従事者の研修受入体制を整備し、地域医療を担う人材の育成を行います。

### ②今後持つべき病床機能

#### ○急性期病床

救急医療や手術体制の整備など島内完結型の医療提供体制の構築に向けた取り組みを進めており、これらに対応するため急性期の病床機能を確保する必要があります。また、島内に医療機関が多くあり機能分担が明確でないため、今後は機能分担を進めていく必要があります。

#### ○回復期病床

現在、壱岐病院以外で回復期病床を持つ病院が1病院しかなく医療需要の増加を考慮すると当面は当院の回復期病床が地域の回復期機能の中心的な役割を担うと考えます。リハビリテーション機能や在宅支援等機能の充実を図っており、病床が不足する可能性があります。

#### ○慢性期病床

平成27年度からレスパイト入院を受け入れ、在宅介護家族のケア・負担軽減を図っているところです。今後においても地域包括ケアシステム構築に向けて必要な機能と考えていますが、将来的には人口動態や患者動向を見極めた上で適正な病床数を検討する必要があります。

### 【3. 具体的な計画】

#### ① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

病床数(結核・感染症病床除く)

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0床		0床
急性期	77床	→	77床
回復期	43床		43床
慢性期	48床		48床
(合計)	168床		168床

現在、病棟・病床体制は機能分化しながら病床稼働率を維持している状態であるため、当面は現状を維持することが必要であり、2025年度の病床数を現在と同じ168床とします。

しかしながら、今後の人口動態や患者数の推移、民間医療機関との機能分担の状況を見極めながら、病棟・病床のあり方については検討していく必要があります。

#### ② その他の数値目標について

<u>医療提供に関する項目</u>		
	平成28年度実績	2025年度目標
<u>病床稼働率 (%)</u>	<u>91.5%</u>	<u>94.3%</u>
<u>手術件数 (件)</u>	<u>484件</u>	<u>550件</u>
<u>紹介率 (%)</u>	<u>8.9%</u>	<u>10.7%</u>
<u>逆紹介率 (%)</u>	<u>14.0%</u>	<u>14.5%</u>
<u>経営に関する項目*</u>		
	平成28年度実績	2025年度目標
<u>経常収支比率</u>	<u>98.1%</u>	<u>100.3%</u>
<u>人件費率 (%)</u>	<u>66.6%</u>	<u>65.0%</u>
<u>医業収益に占める人材育成に かける費用(職員研修費等) の割合</u>	<u>0.4%</u>	<u>0.5%</u>

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。